



普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL : 0193-64-2220

FAX : 0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL : 0194-22-3115

FAX : 0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット <https://i-agri.net/>

水稻の栽培管理について

1 移植の経過

今年も田植えが平年並に進みました。田植え後は、好天が続き活着が促進され、6月13日時点の調査では草丈、葉齢は概ね平年並み、茎数は平年よりも多く確保されました（山田町荒川、生育診断圃）。

2 今後の技術対策

(1) ガス湧きの程度と対策（異常還元）

特徴	生育への影響	対策	
		分けつ初期	分けつ盛期
歩くと多量の気泡が発生	根の活力低下	・水の入れ替え	・水の入れ替え ・中干し
晴天時自然に気泡が発生。歩くと著しい量の気泡が発生（ドブ臭がする）	根の伸長阻害 地上部黄化	・夜間落水	・間断灌漑 ・夜間落水 ・中干し

(2) 中干し

- ・ 目標茎数（20～30本/株）の確保後に**7～10日間**行います（幼穂形成期まで）。
※ 田面に小さな亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度が目安。
- ・ 茎数が不足する場合は、中干しを行わず、浅水管理で分けつを促します。

(3) 追肥

- ・ 葉色がさめたら**幼穂形成期（7/10頃）に窒素成分2kg/10a以内**を施用します。
※ 葉色が濃い場合はいもち病や倒伏のリスクが高まるので追肥は控えましょう。

(4) いもち病防除

- ・ 田植え後の**取り置き苗は、いもち病の発生源となるので早急に処分**してください。
- ・ 箱施用剤を使用している場合は、穂いもち対象の粒剤施用（7月中旬）または出穂直前と穂揃期の2回の茎葉散布を基本に防除を行って下さい。 【佐藤（翠）】

「銀河のしずく」の実証圃を紹介します

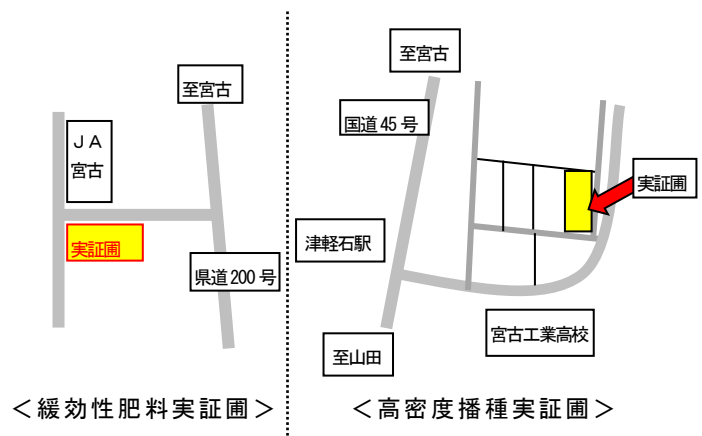
1 緩効性肥料実証圃（宮古市花輪）

追肥を省略できる肥料の実証で、省力化と収量・品質の向上の両立を目指しています。

2 高密度播種実証圃（宮古市赤前）

播種量を乾籾250g/箱程度とすることで使用箱数を減らしコスト削減を図ります。

併せて育苗期追肥による活着促進や追肥時期の前進化による品質向上を調査します。



【佐藤（翠）】

「宮古地方産春ブロッコリーの出荷」始まる！

宮古地方産の春ブロッコリーの本格的な出荷開始に向け、5月28日に「ブロッコリー目揃会」がJA新しいわて田野畑集荷場で開催されました。

宮古地方産のブロッコリーは県内生産量の約4割を占め、県内一となっています。

目揃会では、市場担当者より消費地の情勢、農協より出荷方法・出荷規格の説明、普及センターより今後の管理や秋冬作型等について説明を行いました。

その後、実際の収穫物を確認し、品質・形状等を評価しながら生産者の目合わせを行いました。

今年は、宮古地方の生産者23名に加え、新たに栽培を開始する久慈地域を含め、統一した出荷規格での販売に向けた取組が開始されます。

当地方のブロッコリーは、春作型を中心に年々栽培面積が拡大していますが、秋冬作型の取組も始まっています。

今年度は販売額9千万円の到達、部会員有志によるG-GAP認証取得に向けた取組等、部会による主体的な活動が期待されます。



目揃会の様子



市場担当者との品質評価の様子

【佐々木（満）】

熱中症を防ぎましょう

- 1 水分補給は20分間隔を目安に、こまめな休憩を心掛けましょう。
※ 水分だけはダメ！「水+塩分」の補給が大切。スポーツ飲料も有効。
- 2 熱中症予防用品を上手に活用しましょう。
※ 帽子や吸汗速乾性素材の衣服で予防。
- 3 炎天下の単独作業は避けましょう。
※ 定期的に声掛けするなどして、互いの体調を確認。

【三浦】

農薬を適正に使用しましょう

2019年度の岩手県農薬危害防止運動の実施期間を6月1日から8月31日までと定め、農薬による事故防止の徹底を図っています。

- 1 農薬は、鍵のかかる保管庫に保管しましょう。
- 2 使用前に必ず農薬ラベル記載の登録内容や使用上の注意等を確認しましょう。
- 3 使用時は、マスク・合羽・手袋などを着用しましょう。
- 4 使用後は、散布機具をしっかりと洗浄しましょう。
- 5 使用記録（農薬名、散布月日、散布濃度、散布量）を残して家族で共有しましょう。農薬を適正に使用し、農薬による危害の防止に万全を期してください。

【佐々木（貴）】